

# 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)	
①「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 ②タブレット端末を活用した授業実践 ③タブレット端末の家庭学習での活用 ④英語に親しむ指導の充実 ⑤情報教育の充実 ⑥読書活動の充実	

授業改善の重点	
①学習課題やねらいの提示、振り返りとともに、「価値ある対話の共有」を授業場面で意図的に設定し、自ら学び、協働して課題を解決できる生徒の育成を図る。 ②探究的、対話的、協働的な学習による生徒の「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を育むとともに、情報モラルの計画的な育成を図る。 ③クラウド型学習支援コンテンツ、学習者用デジタル教科書等の活用を推進を通して、家庭と協力して知識・技能の習得に向けた学習内容の理解を深めさせる。 ④第1学年の TOKYO GLOBAL GATEWAY での校外学習、第2学年のブリティッシュヒルズでの宿泊学習を実施するとともに、第3学年までに英語検定3級取得を促す。 ⑤授業時数特例校の制度を活用し、第3学年の技術において35単位時間の授業を確保し、外部機関と連携してプログラミングを中心とした情報活用能力を身に付けさせる。 ⑥毎朝の読書活動を通して読書習慣を身に付けさせるとともに、国語等の授業において書評についての意見交換を行い、読書に親しむ態度を育成する。	

各教科の指導の重点	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、グループ活動等を通じ異なる視点の考え方を学ばせる。</li> <li>他者との意見交換から伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</li> <li>読解力につながる語彙力向上のために、教科書の語句の意味を調べさせ、言語感覚を豊かにする。</li> <li>ICTを活用し情報の共有を図る。また説明や導入に視覚的な資料を取り入れ理解を深めさせる。</li> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、筋道を立てて考える力や話の展開を考える力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用することで視覚資料を充実させ、表現活動や鑑賞活動における発想や構想の向上を促す。</li> <li>作品制作を通して美術の表現活動において、ワークシートの記入などによる中間チェックや振り返りの機会を設けて自身の課題を発見し、制作の見直しをもてるようにする。</li> <li>生徒同士で作品の発表や鑑賞会を行い、制作者の意図や鑑賞者の感想を知る機会を設けて、他者の感情を想像する感受性を育み、豊かな情操を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心を促す「体験的な学習活動」やインターネットを利用した調べ学習、ゲーグルクラスルームや各種思考ツールを利用した深い学びなどを取り入れ、学ぶ意義や目的を明確にすることで、学び方や考え方を学ばせる「探究的な学習活動」を充実させる。また、発表活動を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。</li> <li>各種行事の事前、事後学習等で、生徒一人一人に自らのねらいや目標を明確化させ、達成させるための意図的、計画的な指導を全教職員で徹底する。また、生徒一人一人が自分あるいは自分たちの気持ちや考えを「表現する」活動を通して自治能力を養い、他者から賞賛・感謝される体験を積ませることで、自分の生き方を肯定的に捉える機会とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「特別の教科 道徳」に関して校内で研究してきた成果を生かし、道徳教育推進教師を中心に問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れた指導方法を工夫し、また個々の成長を捉えた評価をすることで生徒の道徳性を養う。</li> <li>教科書を主たる教材として使用し、考え、議論する授業を通して規範意識や公共心を高める指導、人権教育、命の大切さを考えさせる指導を行う。</li> <li>学校行事の目的に道徳的な価値観を明示して指導、評価を行い、体験活動を通して思いやりの心、役割意識、責任感をもたせる。</li> </ul>
	社会科	保健体育科	特別活動の指導の重点	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用し「だれにでもわかる」学習環境を、UDの視点をふまえて保障できるように、教材・教具を工夫する。</li> <li>タブレット端末を生徒が実際に活用し、情報を収集し、資料を比較検討したり、互いに共有し、発表したりすることで、主体的または協働的な学習ができる場面を設定する。</li> <li>表現力を育むためにペア・グループワークを多用し、あわせて互いの意見を尊重する姿勢を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループによる教えあい活動、課題解決型学習カードの工夫をし、自分の考えを上手に表現する力を育む。</li> <li>全学年で統一したラジオ体操、準備運動、集団行動を引き続き実施し、集団力の育成を図る。そして授業への意欲、仲間への気付き等、心の成長を図るなど、心と体の一体化を目指し技能への向上へと繋げていく。</li> <li>スポーツテストで課題となった、投力、柔軟性を高める準備運動を実践する。また、体づくり運動を工夫し生徒の基礎体力を高める。</li> <li>ICT機器を利用し、視覚的に理解が深まるように授業環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にとって学校生活の基本となる「学級活動」に関して、今まで進めてきた校内研究の成果を生かし、さらに充実させることにより各教員の指導力・実践力を向上させる。</li> <li>生徒の意欲を引き出し、主体的・積極的に取り組める魅力的な行事を実施し、生徒にとっての「感謝される体験」を通して自尊感情を向上させ、学習や諸活動に積極的に取り組む意欲を喚起する。</li> <li>部活動を適切に実施する中で、生徒一人一人の活躍の場を設定し、達成感・満足感を味わわせることで忍耐力・協調性等を育成し、自己実現への意欲を高める。</li> <li>生徒会における自治的活動や校内・地域・連携小学校等での自発的なボランティア活動を通して、学校及び地域社会の一員として主体的に関わり貢献しようとする態度を育成する。</li> </ul>	
	数学科	技術・家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項も含め繰り返し丁寧な指導を行うことで基礎・基本の定着を図る。</li> <li>グループ学習やペア学習を多く取り入れ、協同して問題解決にあたらせることで様々な見方や考え方をういて問題を解決する力を身に付けさせる。</li> <li>各単元末に応用問題を扱うことで「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせる。</li> <li>長期休業中に計算問題を中心とした課題に取り組みせ、休業明けに確認テストを行って基礎学力の定着を図る。</li> <li>内容に対する理解を深めるため、Chromebookやデジタル教科書を活用したICT機器を用いた授業、協働学習を取り入れた授業を行う。</li> <li>第2・3学年に習熟度に応じた授業を行い、生徒の状況に対する理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的、体験的な活動を積極的に授業に取り入れ、作業・実習の楽しさや面白さ、完成することの喜びを体得させられるような指導の工夫や活動の充実を図る。</li> <li>基礎的、基本的な知識、技能の定着が図れるような教材の工夫を行う。その際、ICTの活用や教材・教具の工夫などの充実を図る。</li> <li>現代の社会、生活に課題を見出し、より良い生活にむけての工夫や、学んだことを生活に生かす方法を考える活動を取り入れる。</li> </ul>		
	理科	外国語科		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着として、長期休業中に課題を出す。</li> <li>基礎学力を活用して実験結果の考察などを行い、思考・表現力を伸ばす。</li> <li>実験結果の予想やまとめにグループ学習を取り入れ、言語活動を通して学び合いをさせる。</li> <li>定期考査終了後のテスト直しを通して結果を分析させ、弱点に気づかせ、次回以降の改善につなげる。</li> <li>補助教材のドリルやプリントを用いて、基礎・基本を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組む活動として、ペアワークやグループワークを授業内で多く取り入れ、一人一人の生徒が発話する機会を増やす。また、音読テスト、スキットやスピーチを行い、生徒の表現能力を確認する。</li> <li>ALT外国人講師との会話テストや表現テストを行い、英語を用いた会話を伸ばしていくと同時に、相づちなどの必要な表現も学ばせる。</li> <li>長期休業中に英単語や連語の定着を図る課題をだし、基礎的な語彙力を補う。また、確認テストを行い、定着を図る。</li> <li>既習表現を用いて、英語で説明をする力を養う実践の場として、TGG、宿泊行事での研修を行い、活きた英語を使って会話する機会を設ける。</li> <li>ICT機器を用いてShow &amp; Tellやスピーチの資料作成に取り組む。</li> </ul>		
	音楽科			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎の定着を目指すため、基本的な音楽記号を中心に指導していく。</li> <li>「考える力」をのばすために、楽曲を、時代、作曲者の想い、歌詞、旋律、強弱などの音楽的要素から読み取り、特徴をつかみ、思いをもって曲と向き合えるように、自ら考察する学習活動を設定する。</li> <li>「考える力」「表現する力」をのばすために、歌唱活動や器楽活動で、グループ学習を取り入れ、意見を出したり、よりよい表現のために練習をしたりする。</li> </ul>			

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	価値ある対話の共有	振り返りの設定
	①Chromebookとプロジェクタによる一斉提示を活用した授業を全教員が実践する。 ②Googleアプリを活用した授業・教材づくりの効率化に全教員で取り組む。 ③一人一台のChromebookを活用し、生徒が自ら機器を操作し、主体的・対話的で深い学びが実践できる授業づくりに全教員が取り組み、活用の仕方全校での共有を図る。	①話し合い活動では、「相手の意見を否定せず認める」、「仲間はずれをつくらない」といった意識的な声かけや授業ルールを全教科で実践する。 ②ICT機器を活用し、自分の考えを表現し、共有する場面を意図的に増やす。	①指導と評価の一体化を念頭に、授業の目当てに正対したふりかえりを、板書・スライド(一斉提示)・プリントなどで明確に行うことを全教科で実践する。 ②「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、学習のまとめごとの「見直し」を踏まえた「振り返り」ができるように、学習の記録やICT機器の活用を工夫する。